



Title	日本語・日本文化 第53号 奥付
Author(s)	
Citation	日本語・日本文化. 2026, 53
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104005
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

執筆者紹介

中田 一志	本センター教授
岩井 茂樹	本センター教授
水野 亜紀子	本センター准教授
立川 真紀絵	本センター准教授
下村 朱有美	本センター特任准教授
チョルカ・ ラルカ・マリア	本センター特任助教

編集後記

本号には多くの論考が集まり、またその内容も実に多岐にわたるものになりました。

中田論文（研究論文）は、接続詞「そこで」の類型について、またもう一本の研究ノートでは、逆接接続詞「でも」について論じたものになっています。岩井論文（研究論文）は、豊臣秀次の視線の意味を考察したもので、もう一本の岩井論文（研究ノート）は、雑誌『ニコニコ』が笑顔写真に果たした役割について論じたものです。水野論文は、芥川龍之介の『忠義』を時代背景に基づいて再考したものとなっています。立川論文は、外国人のビジネスパーソンの成長をアイデンティティの変容という観点から解析したものです。下村論文は、2025年に行われた大阪・関西万博で使われた日本語の事例紹介を行っています。チョルカ論文は、一時期流行になった「マスク美人」という複合語の変容を解析したものです。

今後も本センターに関わる皆様から、日本語・日本文化に関するさまざまな論考が提出されることを期待するとともに、本誌がより多くの方々に参照されていくことを願っております。

『日本語・日本文化』投稿規定

1. 資格：本センターまたは関係機関所属教員（非常勤を含む）及び『日本語・日本文化』編集委員会において適当と認められた者。
2. 内容：日本語・日本文化等に関する未発表の研究論文・研究ノート・研究報告等。
3. 体裁：研究論文はA4用紙35字×35行20,000字程度（欧文はA4ダブルスペース30行10,000語程度）、研究ノート・研究報告は10,000字程度（欧文は5,000語程度）。
4. 要旨：本文和文の場合、欧文による要旨（A4ダブルスペース1枚）を、欧文の場合は、和文による要旨（800字程度）を添付。
5. 採否：原稿の採否は『日本語・日本文化』編集委員会が決定。

編集委員

岩井 茂樹 藤平 愛美 松浦 幸祐

日本語・日本文化 第53号

2026年3月10日 発行

編 集	大 阪 大 学
発 行	日本語日本文化教育センター
	〒562-8678
	箕面市船場東3-5-10
	電 話 (072) 730-5459
	FAX (072) 730-5074
印 刷	株式会社アイジイ